



遠藤さん(右)と、彩り豊かな装束をまとった馬コ

# 馬がいる風景をできるだけ残したい — 安比塗の鞍に思いを乗せて —



輝  
キラ 人 — 第153回 —

八幡平市から、自慢の馬と  
チャグチャグ馬コに参加している

## 遠藤 岩男 さん

えんどう・いわお 66歳 土沢

普段は、息子たちに引き継いだ酪農(搾乳30頭、育成牛30頭)を手伝いながら、農耕馬とポニー(小型馬)の繁殖事業を行っている。「息子たちは黒毛和牛もやっているが、そっちの牛舎はノータッチ。俺が行くと口出ししちゃうから」と苦笑い。チャグチャグ馬コの時期は、牧草(一番草)の採草作業時期と重なるが「家族みんなが協力してくれるからうれしい」と目を細める。

「好きでやってるだけで、特に話すこともねえんだけど、俺の人生のメインだから、毎年楽しみにしている」とにこやかな笑みを浮かべるのは、馬の無病息災を祈る伝統行事「チャグチャグ馬コ」に、4年前から愛馬と共に参加している遠藤岩男さん。

神社(滝沢市)から盛岡八幡宮(盛岡市)までの、およそ14キロを、華やかな装束をまとった農耕馬が行進する初夏の風物詩。今は行事本番に向け、馬の調整や道具の確認に余念がない。高校卒業後、家業の酪農に従事していた遠藤さんが、繁殖のために馬を飼いだしたのは23歳のとき。

程なくして「馬を貸して」とチャグチャグ馬コの関係者から声を掛けられたのが縁で、以来40年近く行事の際には馬を貸してきた。自身が初めて馬コ行列に参加したのは令和4年。それまで行列への参加は、滝沢市盛岡市、矢巾町の居住者を要件とする「チャグチャグ馬コ同好会」の会員に限られていたが、3市町以外の人も会

に加入できるようになると「ずっと馬を貸していたので、せっかくだから自分の名前でも」と、会への加入を決めた。鞍と馬に着せる装束を揃え、初めて行列に参加すると、翌年は息子も会員に名を連ね、同時に安比塗の鞍も特注。重厚かつ華やかで「八幡平市 遠藤」と記された鞍を見た人から「これもいいね」と声を掛けられ頬が緩んだ。さらにその翌年、翌々年と孫2人も順次会員になると、その都度、安比塗の鞍も増やし、今は4人で4頭を参加させている。「滝沢市さんの行事だけど、せっかく俺もお手伝いしているから、ちょっとは八幡平市をPRしようと思ってね」と遠藤さんは言う。

「1年に1回しかない伝統行

※1 行進行事に携わっている人などで構成。行事への参加のほか、保存・普及活動を行っている

※2 会員1人につき1頭を率いて参加ができる。自己所有馬か借りた馬かは問わない



安比塗で仕上げられた鞍(手前)と、馬に着せる装束

事。好きだからやっているだけで、あんまり真面目に考えたことはねえけど『馬がいる風景を、出ただけ残していきたい』っていう思いはあるかな」と遠藤さん。今年のチャグチャグ馬コは6月13日(土)。「14キロの行程だけど、歩けるうちは、この先も参加し続けたい」と朗らかに笑みを広げます。

### ■ 編集後記

▽先日のオリンピック距離競技に、日本女子で唯一出場した土屋選手。「日本で一番速い人が世界で戦えなかったら、希望が無くなってしまう」との覚悟を持って臨んだと、所属先企業がある青森県の地元紙に紹介されていました。感謝を何度も口にする真摯な人柄と、使命感に心を動かされました。▽キラリの遠藤さんを取材。馬コとして活躍する農耕馬の迫力はもちろんですが、飼養しているポニーのかわいさも紹介したので写真を載せます。八幡平市内にポニーって居たんだ……。



※広報はちまんだい5月14日号(No.371)の印刷経費は1部113.02円、発行部数は9,431部です。経費の一部は広告料で賄われています。広告掲載は、株式会社総合広告社(019-626-3370)まで。

【広告】この広告は、広告主の責任において市が掲載しているものです。

関節痛、腰痛、骨を丈夫に  
コミュニティバス  
「八幡平中央整形」バス停そば  
(八幡平中央 整形外科・内科クリニック)  
漢方のあさひ薬局  
八幡平市大更25-118-1 TEL.0195-75-2227



発行 岩手県八幡平市 (編集:企画財政課)  
〒028-7397 岩手県八幡平市野敷第21地割170番地  
☎0195-74-2111 FAX0195-74-2102